

年間指導計画表(シラバス)

科目名	家庭・家庭基礎	単位数	2(前期又は後期)
		学年等	平日登校コース・1年次

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活や環境などの基礎的なことについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付け、活用することができる。</p> <p>(2) 生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現することができる。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、改善し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践することができる。</p>
使用教科書 副教材等	<p>家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍)</p> <p>家庭基礎 学習ノート(東京書籍)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活や環境などの基礎的なことについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付け、活用することができる。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現することができる。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組み、改善し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとする。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前半	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる 第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会を共に生きる 第5章 共に生き、共に支える 第8章 住生活をつくる 第9章 経済生活を営む	・学習ノート ・ワークシート ・作品製作	・視聴記録 ・レポート ・授業中の行動観察 ・学習課題	・提出課題 ・授業中の行動観察
	評価点	50点	120点	100点
後半	第10章 持続可能な生活を営む 第7章 衣生活をつくる 第6章 食生活をつくる 第11章 これからの生活を創造する	・定期考査 ・学習ノート ・ワークシート ・作品製作	・視聴記録 ・授業中の行動観察 ・学習課題 ・作品製作	・提出課題 ・授業中の行動観察
	評価点	150点	80点	100点

4 指導の計画

学期	月	月	単元及び学習内容	時数
前半	4	10	〔家庭科の学び方〕 生活に活かそう～ホームプロジェクト～	1
			〔第1章 生涯を見通す〕 1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	1
	5	11	〔第2章 人生をつくる〕 1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	3
			〔第3章 子どもと共に育つ〕 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境	7
	6	12	〔第4章 超高齢社会を共に生きる〕 1 超高齢・大衆長寿社会を迎えて 2 高齢期の心身の特徴 3 これからの超高齢社会	6
			〔第5章 共に生き、共に支える〕 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	3
	6	12	〔第8章 住生活をつくる〕 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	7
〔第9章 経済生活を営む〕 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任			4	
			レポート作成	1
後半	7	1	4 生涯の経済生活を見通す 5 これからの経済生活	1
			〔第10章 持続可能な生活を営む〕 1 持続可能な社会を目指して	1
	8	2	〔第7章 衣生活をつくる〕 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 衣生活の文化と知恵 5 これからの衣生活	12
			〔第6章 食生活をつくる〕 1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食品の選択と安全	17
	9	3	4 生涯の健康を見通した食事計画 5 調理の基礎 6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活	1
			〔第11章 これからの生活を創造する〕 1 生活をデザインする	1
				期末考査(前期又は後期)
			前期又は後期の学習のまとめ	4

5 その他

- ・実践的な学びとなるよう、講義以外に体験学習や実験・実習も行います。
- ・毎回の授業で提出課題があります。
- ・定期考査は1回実施します。
- ・ルールを守り、集中して授業に取り組み、基礎的な学力を身に付けましょう。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	家庭・家庭基礎演習	単位数	2(通年)
		学年等	平日登校コース・2年次

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 生活を主体的に営むために必要な福祉、衣食住、消費生活・環境など基礎的なことについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付け、活用することができる。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決することができる。</p> <p>(3) よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践することができる。</p>
使用教科書 副教材等	<p>家庭基礎 自立・共生・創造(東京書籍)</p> <p>家庭基礎 学習ノート(東京書籍)</p> <p>※いずれも令和4年度以降の「家庭基礎」の授業で使用したものを継続使用する。</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生活を主体的に営むために必要な福祉、衣食住、消費生活・環境など基礎的なことについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付け、活用することができる。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決することができる。	よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとする。
評価点	400点	400点	400点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	<p>〔生活の自立〕</p> <p>第8章 住生活をつくる</p> <p>第9章 経済生活を営む</p> <p>第6章 食生活をつくる</p>	<p>・確認テスト</p> <p>・学習ノート</p> <p>・提出課題</p>	<p>・確認テスト</p> <p>・プレゼンテーション</p> <p>・提出課題</p>	<p>・授業の行動観察</p> <p>・提出課題</p>
	評価点	200点	200点	200点
後期	<p>〔家族・社会との共生〕</p> <p>第3章 子どもと共に育つ</p> <p>第5章 共に生き、共に支える</p> <p>〔生活の自立〕</p> <p>第6章 食生活をつくる</p> <p>第7章 衣生活をつくる</p> <p>第10章 持続可能な生活を営む</p>	<p>・確認テスト</p> <p>・学習ノート</p> <p>・提出課題</p>	<p>・確認テスト</p> <p>・プレゼンテーション</p> <p>・提出課題</p>	<p>・授業の行動観察</p> <p>・提出課題</p>
	評価点	200点	200点	200点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	〔生活の自立〕 第8章 住生活をつくる	12	
	5	1 住生活の変遷と住居の機能		
		2 安全で快適な住生活の計画		
		3 住生活の文化と知恵		
		4 これからの住生活		
	6	第9章 経済生活を営む	4	
		4 生涯の経済生活を見通す	1	
			15
	7	3 食品の選択と安全		
	8	5 調理の基礎		
9	6 食生活の文化と知恵			
		1		
.....			2	
前期の学習のまとめ			2	
後期	10	〔家族・社会との共生〕 第3章 子どもと共に育つ	12	
	11	2 子どもの育つ力を知る		
		3 子どもと関わる		
	12	第5章 共に生き、共に支える	4	
		3 共に生きる	1	
			
	〔生活の自立〕 第6章 食生活をつくる			5
		4 生涯の健康を見通した食事計画		
		5 調理の基礎		
		7 これからの食生活		
	1	第7章 衣生活をつくる	6	
		4 衣生活の文化と知恵		
	2	5 これからの衣生活	4	
第10章 持続可能な生活を営む				
.....			1	
3	後期の学習のまとめ	2		

5 その他

- ・「家庭基礎」を発展させた科目で、レポート作成やグループワーク、プレゼンテーションを多く行います。グループワークや人前での発表が得意な人に向いています。
- ・中間考査・期末考査は実施しませんが、授業内で確認テスト(筆記・実技)等を実施します。
- ・実習費が高額です。保護者と相談してください。
- ・食物アレルギーのある人は医師・保護者と相談してください。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	家庭・カラーライフデザイン	単位数	2(通年)
		学年等	平日登校コース・4年次

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 生活に関わる色彩について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。</p> <p>(2) 実生活から色彩に関する課題を発見し、生活の質の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に課題を解決することができる。</p> <p>(3) 生活の質の充実向上を目指して自ら学び、色彩のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。</p>
使用教科書 副教材等	<p>色彩検定® 公式テキスト 3級編(色彩検定協会)</p> <p>ファッション&ビューティーの色彩(日本色研事業株式会社)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	生活に関わる色彩について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。	実生活から色彩に関する課題を発見し、生活の質の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に課題を解決することができる。	生活の質の充実向上を目指して自ら学び、色彩のもつ機能の展開に主体的かつ協働的に取り組む態度を養おうとする。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1 色のはたらき 2 光と色 3 色の表示(表色系) 4 色彩心理 5 色彩調和	・ワークブック ・確認テスト	・提出課題 ・レポート	・授業の行動観察 ・作品制作
	評価点	100点	100点	100点
後期	5 色彩調和 6 配色イメージ 7 ファッション 8 インテリア 9 慣用色名	・ワークブック ・確認テスト	・提出課題 ・レポート ・プレゼンテーション発表	・授業の行動観察 ・作品制作
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	1 色のはたらき	1
		2 光と色	5
	5	・色の見え方 ・眼のしくみ ・照明と色の見え方 ・混色	
	6	<課題提出> <確認テスト>	
		3 色の表示(表色系)	8
		・色の分類と三属性 ・PCCS	
	7	<課題提出> <確認テスト>	
	8	4 色彩心理	9
		・色の心理効果 ・色の視覚効果 <課題提出> <確認テスト>	
9	5 色彩調和	10	
	・配色の基本的な考え方 ・色相を手がかりにした配色 ・トーンを手がかりにした配色 ・色相とトーンを組みあわせた配色 <課題提出> <確認テスト> <作品制作>		
	前期の学習のまとめ <レポート提出>	2	
後期	10	5 色彩調和	8
		・配色の基本的な技法 ・配色演習 <課題提出> <確認テスト> <作品制作>	
	11	6 配色イメージ	8
		・配色イメージ <課題提出> <レポート提出>	
	12	7 ファッション	10
		・ファッションと色彩 <プレゼンテーション発表>	
	1	8 インテリア	5
		・インテリアと色彩 ・インテリアのカラーコーディネーション ・インテリアにおける色の心理効果 <課題提出>	
	2	9 慣用色	2
	・慣用色名(JISの慣用色名より)		
3	後期の学習のまとめ <レポート提出>	2	

5 その他

- ・生活全般の色彩に関わる課題や作品制作、学習のまとめとしての発表会を行います。
- ・グループワークや人前での発表が得意な人に向いています。
- ・課題に沿った資料(雑誌や写真の収集)を授業前に自分で準備する必要があります。
- ・色彩検定を受検する場合は、別途問題集の購入、申し込みや受検料の支払い等を自分で行ってください。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	家庭・消費生活	単位数	2(通年)
		学年等	平日登校コース・4年次

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1) 経済社会の動向、消費者の権利と責任、消費者と行政や企業との関わり及び連携の在り方などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 (2) 消費生活に関する課題を発見し、消費者の視点から合理的かつ創造的に探究することができる。 (3) よりよい消費生活の実現を目指して自ら学び、消費者の支援や持続可能な社会の形成に主体的かつ協働的に取り組むことができる。
使用教科書 副教材等	消費生活(実教出版)

2 評価の観点等

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	経済社会の動向、消費者の権利と責任、消費者と行政や企業との関わり及び連携の在り方などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。	消費生活に関する課題を発見し、消費者の視点から合理的かつ創造的に探究することができる。	よりよい消費生活の実現を目指して自ら学び、消費者の支援や持続可能な社会の形成に主体的かつ協働的に取り組もうとする。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	なぜ「消費生活」を学ぶのか 第1章 社会を支える消費者 第2章 消費者被害と消費者の権利・責任 第3章 消費生活の安全と自由 第4章 消費者の自立支援	・確認テスト ・実験・実習	・レポート ・ワークシート ・プレゼンテーション	・授業の行動観察 ・提出課題
	評価点	100点	100点	100点
後期	第5章 消費者契約と法 第6章 環境と消費者	・確認テスト ・実験・実習	・レポート ・ワークシート ・プレゼンテーション	・授業の行動観察 ・提出課題
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	なぜ「消費生活」を学ぶのか	1	
	5	第1章 社会を支える消費者 第1節 消費生活の役割 第2節 生涯の計画と管理 第3節 社会の変化と消費生活の変化	9	
		6	第2章 消費者被害と消費者の権利・責任 第1節 消費者が受ける不当な不利益 第2節 消費者の権利確立の方策	4
			7	第3章 消費生活の安全と自由 第1節 消費生活の安全の確保 第2節 消費生活の自由の確保
	8	第3節 信頼できる情報の確保		
		9	第4章 消費者の自立支援 第1節 支援の必要性 第2節 事業者からの支援	4
			確認テスト	1
			
		前期の学習のまとめ	2	
	後期	10	第5章 消費者契約と法 第1節 生活の中の契約 第2節 契約と責任 第3節 複雑・多様化する販売方法と悪質商法 第4節 消費者取引と関連法	12
11			第5節 電子商取引と消費生活 第6節 多様化する支払方法と資金調達 第7節 グローバル化と消費生活	
			12	第6章 環境と消費者 第1節 はじめに 第2節 地球環境問題と私たちの生活 第3節 消費の価値観の変化と環境問題
1		第4節 消費の拡大が地球環境に与える影響 第5節 持続可能な社会への枠組み		
		2		第6節 環境問題と商品・サービスの選択と利用 第7節 エシカル消費 第8節 持続可能なライフサイクル
				確認テスト
			
3		後期の学習のまとめ	2	

5 その他

・消費者問題や消費者の権利に関わる法律、環境問題等の授業を基に、個人での調べ学習やグループワーク、発表会を行います。

・中間考査・期末考査は実施しませんが、授業内で確認テストを行います。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	家庭・保育基礎	単位数	2(通年)
		学年等	平日登校コース・3年次

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 保育の意義や方法、子どもの発達や生活、子どもの福祉や文化などについて、基礎的な知識と技術を習得することができる。</p> <p>(2) 子どもを取り巻く課題を見だし、よりよい保育を目指して思考を深め、合理的・創造的に表現することができる。</p> <p>(3) 保育に関心をもち、保育に必要な知識と技術を進んで習得し、他者と協働しながら主体的に取り組むことができる。</p>
使用教科書 副教材等	<p>保育基礎(実教出版)</p> <p>保育基礎 学習ノート(実教出版)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	保育の意義や方法、子どもの発達や生活、子どもの福祉や文化などについて、基礎的な知識と技術を習得することができる。	子どもを取り巻く課題を見だし、よりよい保育を目指して思考を深め、合理的・創造的に表現することができる。	保育に関心をもち、保育に必要な知識と技術を進んで習得し、他者と協働しながら主体的に取り組もうとする。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1章 子どもの保育 2章 子どもの発達 4章 子どもの文化(表現活動は通年実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・ワークシート ・実習課題 ・確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・ワークシート ・実習課題 ・課題活動の発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・ワークシート ・授業の行動観察
	評価点	100点	100点	100点
後期	3章 子どもの生活 5章 子どもの福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・ワークシート ・実習課題 ・確認テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・ワークシート ・実習課題 ・課題活動の発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・ワークシート ・授業の行動観察
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数
前期	4	1章 子どもの保育 1 保育の意義 I 保育とは II 保育の意義 2 保育の方法 I 保育者の役割 II 一人ひとりに合わせた指導 3 保育の環境 I 家庭での保育 II 幼児教育・保育の場 III 子どもが育つ環境の変化と課題 <実習課題> <確認テスト>	4
	5	2章 子どもの発達 1 子どもの発達の特性 I 発達と保育 II 発達の共通性と個別性 2 子どものからだの発達 I 発育・発達の評価 II 身体的特徴 III 生理的特徴 3 子どもの心の発達 I 社会・情緒的な発達 II 知的発達 III 言葉の発達 <実習課題> <確認テスト>	15
	6		
	7	4章 子どもの文化 1 子どもの文化の意義と支える場 I 子どもの文化 II 子どもの文化を支える場 2 子どもの遊びと表現活動 I 遊びと発達 II 遊びと表現活動(通年実施) <実習課題> <課題活動の発表>	14
	8		
	9	前期の学習のまとめ	2
後期	10	3章 子どもの生活 1 子どもの生活と養護 I 生活と養護 II 栄養と食事 III 衣生活<実習課題> <課題活動の発表>	22
	11	2 生活習慣の形成 I 子どもの生活習慣 II 基本的な生活習慣 III 社会的な生活習慣	
	12	3 健康管理と事故防止 I 子どもの健康管理 II 事故の防止と応急処置 <確認テスト> <課題活動の発表>	
	1	5章 子どもの福祉 1 子ども観 I 子ども観の変遷 II 権利の主体としての子どもへ 2 子どもの福祉 I 児童福祉 II 子どもをとりまく課題と対策 III 子どもが育つ社会環境 3 子育て支援 I 子育て支援からパートナーシップへ II 社会的養護 III 地域の子育て支援 <確認テスト>	11
	2		
	3	後期の学習のまとめ	2

5 その他

筆記及び実技の確認テスト、長期休業中の課題、レポート作成、プレゼンテーション発表会等を行います。

グループワークや人前での発表、児童文化財(折り紙や絵本等)の提出も評価します。子ども理解ができ、製作、発表ができる人に向けています。

実習材料費が必要となるため、履修登録前に保護者と相談をしてください。欠席をしても返金することはできません。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	家庭・服飾手芸	単位数	4(前期2+後期2)
		学年等	平日登校コース・4年次

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	(1) 手芸の種類や各種手芸の技法などについて理解し、関連する技術を習得することができる。 (2) 手芸の美的価値や製作工程について課題を見だし、合理的・創造的な製作や活用をすることができる。 (3) 創造的な製作と服飾への活用に主体的・協働的に取り組むことができる。
使用教科書 副教材等	一生使えるおさいほうの基本(主婦の友社)

2 評価の観点等

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	手芸の種類や各種手芸の技法などについて理解し、関連する技術を習得することができる。	手芸の美的価値や製作工程について課題を見だし、合理的・創造的な製作や活用をすることができる。	創造的な製作と服飾への活用に主体的・協働的に取り組もうとする。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1章 手芸の種類と特徴 3章 服飾材料としての各種手芸の技法 2章 手芸の変遷	・ワークシート ・実習課題の製作 ・確認テスト	・ワークシート ・レポート ・実習課題の振り返りシート ・作品の発表	・ワークシート ・授業の行動観察
	評価点	100点	100点	100点
後期	3章 服飾材料としての各種手芸の技法 4章 手芸品の製作(課題研究)	・ワークシート ・実習課題の製作 ・確認テスト	・ワークシート ・レポート ・実習課題の振り返りシート ・作品の発表	・ワークシート ・授業の行動観察
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	1章 手芸の種類と特徴 ＜確認テスト＞	2	
	5	3章 服飾材料としての各種手芸の技法 1 基礎縫い(手縫い)・手芸小物の製作 ・材料の準備、用具の扱い方 ・印付け、裁断、本縫い、仕上げ	6	
		2 基礎縫い(ミシン縫製)・手芸小物の製作 ・材料の準備、用具の扱い方	20	
	6	・型紙づくり、印付け、裁断、本縫い、仕上げ 3 染色	12	
	7	・種類とその特徴 ・材料と用具 ・デザイン、基礎的な染色の技法、仕上げ		20
	8	4 刺しゅう ・種類とその特徴 ・材料と用具		6
	9	・デザイン、基本的な刺し方の技法、仕上げ ＜確認テスト＞	4	
			2章 手芸の変遷 ＜確認テスト＞＜レポートの作成＞ 前期の学習のまとめ	
	後期	10	3章 服飾材料としての各種手芸の技法 7 その他の手芸と手芸品の製作 ・エコクラフト ・革細工 ・ビーズ	30
		11	・水引細工 ・つまみ細工等 ＜作品の発表＞	12
12		5 編物 ・種類とその特徴 ・材料と用具 ・デザインとサイズの取り方、基礎的な編み方の技法、仕上げ	12	
1		6 織物 ・種類とその特徴 ・材料と用具 ・デザイン、基礎的な織りの技法、仕上げ	14	
2		4章 手芸品の製作(課題研究) ＜作品の発表＞	2	
3		後期の学習のまとめ		

5 その他

毎時間、作品製作を行います。細かい作業や、根気強く製作に取り組むことが得意な人に向いています。

精密な機材を使います。丁寧に取り扱いましょう。

実習費が高額のため、保護者とよく相談をした上で履修登録をしましょう。欠席をしても返金することはできません。

年間指導計画表(シラバス)

科目名	家庭・フードデザイン	単位数	4(前期2+後期2)
		学年等	平日登校コース・4年次

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識・技術を身に付け、それらを活用することができる。</p> <p>(2) 食生活を総合的にとらえて計画・実践するために課題を見だし、思考を深め、食育の推進に寄与するために、創意工夫することができる。</p> <p>(3) 食生活に関する諸問題に関心をもち、食育の推進に向けて、積極的に取り組むことができる。</p>
使用教科書 副教材等	<p>フードデザイン(実教出版)</p> <p>フードデザイン 学習ノート(実教出版)</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識・技術を身に付け、それらを活用することができる。	食生活を総合的にとらえて計画・実践するために課題を見だし、思考を深め、食育の推進に寄与するために、創意工夫することができる。	食生活に関する諸問題に関心をもち、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする。
評価点	200点	200点	200点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 食生活と健康 第3章 食品の特徴・表示・安全 第5章 料理様式とテーブルコーディネート 第7章 食育	・行動観察 ・ワークシート ・学習ノート ・確認テスト ・提出課題 ・実技テスト ・プレゼン発表	・行動観察 ・ワークシート ・提出課題 ・プレゼン発表	・行動観察 ・ワークシート ・提出課題 ・プレゼン発表
	評価点	100点	100点	100点
後期	第2章 栄養素のはたらきと食事計画 第4章 調理の基本 第6章 フードデザイン実習	・行動観察 ・ワークシート ・学習ノート ・確認テスト ・提出課題 ・実技テスト ・プレゼン発表	・行動観察 ・ワークシート ・提出課題 ・プレゼン発表	・行動観察 ・ワークシート ・提出課題 ・プレゼン発表
	評価点	100点	100点	100点

4 指導の計画

学期	月	単元及び学習内容	時数	
前期	4	第1章 食生活と健康 1節 食事の意義と役割 2節 食をとりまく現状	8	
	5	第3章 食品の特徴・表示・安全 1節 食品の特徴と性質 2節 食品の生産と流通 3節 食品の選択と表示 4節 食品の衛生と安全	16	
	6	第5章 料理様式とテーブルコーディネート	30	
	7	1節 料理様式と献立 2節 テーブルコーディネート		
	8	前期実技テスト	4	
			
	9	第7章 食育 1節 食育の意義と推進活動	8	
		前期確認テスト		
		前期の学習のまとめ	4	
後期	10	第2章 栄養素のはたらきと食事計画 1節 栄養素のはたらき 2節 ライフステージと栄養	28	
	11	3節 食事摂取基準と食事計画 第4章 調理の基本 1節 調理とおいしさ 2節 調理操作 3節 調味操作	20	
	12			
	1	第6章 フードデザイン実習 1節 献立作成 調理実習	16	
	2	後期実技テスト		
			
		後期確認テスト	2	
		後期の学習のまとめ	4	
3				

5 その他

- ・グループワークや人前での発表が得意な人に向いています。
- ・日常的に料理をしている人、裁縫が得意な人に向いています。
- ・実習費が高額のため、登録前に保護者と相談してください。欠席しても返金できません。
- ・食物アレルギー等、食事制限のある人は、登録前に医師・保護者と相談すること。